

<全体分析>

試験時間 120 分

解答形式

記述式中心。読解総合の一部は客観式。

分量・難易 (前年比較)

分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

- ・2024年度はⅠ・Ⅱ 読解問題 (700~800 words 程度)、Ⅲ 自由英作文問題、Ⅳ リスニング問題(A・B)という大問4題構成だったが、リスニング試験が廃止された2025年度は、Ⅰ・Ⅱ 読解問題 (700~800 words 程度)、Ⅲ 自由英作文問題という大問3題構成となり、リスニング試験廃止に伴う新たな大問の出題はなかった。大問Ⅰ・Ⅱについては、2題合わせての総語数、設問数、日本語での記述量は、それぞれ2024年度に比べて少し減少している。
- ・読解問題は、2021~2023年度の3年間出題された超長文1題型でもそれ以前の長文2題型でも、記述問題と記号選択の客観式問題が1つの問題の中に混在する形で長らく出題されていたが、2025年度は2024年度に続いて、大問Ⅰが日本語記述(和訳と説明問題)のみ、大問Ⅱが客観式問題(空欄補充と語句整序など)のみという形で出題された。
- ・自由英作文問題は、近年出題形式が安定していない。2022・2023年度は2年続けて画像を描写する問題、2024年度は英語の疑問文に対して与えられた選択肢から解答を選んで答える、従来出題されたことがない形式の問題が出題されたが、2025年度は、与えられた状況でその当事者に宛ててメッセージを書く問題となった。これは2017年度に出題されていた手紙を書く問題に近い。

その他トピックス

- ・従来は読解問題で頻出であった下線部の意味・内容を問う問題が2024年度は1つも出題されなかったが、2025年度は大問Ⅰで2問出題された。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「現代の監視社会が人々にもたらす安心と不安」(768 words)	英文和訳2題と内容説明問題3題のオール記述式。文章自体は比較的読みやすく、英文和訳問題は2題ともやや易。説明問題は3題とも、制限字数の中での確に解答をまとめることは容易ではない。1の解答根拠となる箇所は第1段落の下線部の前後にある。4では、「ソーシャルメディアが相互監視の手段として受け入れられてきた」こと(第6段落最終文)が、「現代の監視テクノロジーに対する私たちの寛容さ」の理由として位置づけられていることを明確化するとよい。5は、「技術的な状況」の説明とは何を意味しているのかが把握しづらい受験生もいただろう。 《出典》Christine Rosen, "Surveilling Alone", <i>The New Atlantis</i> , Number 75, Winter 2024	標準

<大問分析>

II	読解総合	「動物にも意識はあることを示唆する新たな研究」(728 words)	文法的に下線部と同じ用法の語を選ぶ問題が2題(同格を導く接続詞 that および疑問形容詞 what)、空欄補充が合計7か所(そのうち前置詞が4か所)、語句整序3題の、オール客観式。2024年度に続いて内容一致問題が含まれていないため、文章全体ではなく設問前後の構造と内容を部分的に把握することで解答できる、比較的解きやすい問題も含まれている。5は、関係詞節の前提となる文は they appeared to enjoy rolling small wooden balls as entertainment 「ハチは小さな木のボールを転がすことを遊びとして楽しむように見えた」。 《出典》Pallab Ghosh, “Are animals conscious? How new research is changing minds”, <i>BBC InDepth</i> , June 16, 2024	やや易
III	英作文	1「親として、わが子が学校で抱えている問題について校長に面談を求める」 2「高校生として、学校近くの公園の修繕費の寄付を地元各企業に依頼する」 3「大学生として、初めて外国への一人旅を計画し、経験豊富な友人に準備の仕方について助言を求める」	英文で与えられた3つの状況から1つを選び、その当事者に宛てたメッセージを100～140 wordsの英語で書く自由英作文。2017年度に出題されていた手紙を書く問題に近い。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・一橋大学の出題傾向は安定しないのは確かであるが、変化しているのはもっぱら大問の構成であり、出題傾向そのものは大きく変わっていない。超長文1題から長文2題へと戻った2024年度も、リスニング試験がなくなった2025年度も、大問の構成や小問の比率の変化があっても、出題された小問はこれまで出題されたことのある形式ばかりである。読解問題では「語彙や文法の正しい知識に基づいて英文を読み、内容把握に基づいて日本語で的確に解答をまとめる力」が問われることは一貫している。2026年度入試に向けても、表面的な変化に惑わされず、土台となる英語力を高めることに注力してほしい。
- ・読解問題については論説タイプの英文を、はじめは短めのものから順に長いものへと、論旨の展開を追いながら読む練習に取り組もう。また、「読めること」と「解けること」は必ずしもイコールではない。一橋大学の英語の一番の特徴と言ってよい内容説明問題については、添削指導を受けるなどして、字数制限内で過不足なくまとめる日本語の表現力も磨いてほしい。
- ・自由英作文の出題内容は近年流動的で、定期的に形式が変わると考えておいた方がよい。一橋大学の過去問題だけでなく様々な形式の問題に取り組むとよいだろう。